

北米における曹洞宗系禅センターの 日課行事について

浅井 宣亮

現在、北米における曹洞宗海外特別寺院は、主に日系人をその宗教活動の対象とする“日系寺院”と、アメリカ人（白人）を対象とする“禅センター”とに二分することができる。そして北米における比較的規模の大きい曹洞宗系禅センターとしては、ロサンゼルス禅センター（Zen Center of Los Angeles: 923 S. Normandie Ave., LA, CA）・サンフランシスコ禅センター（San Francisco Zen Center: 300 Page St., SF, CA）・ミネソタ禅センター（Minnesota Zen Center: E. Calhoun Parkway, Minneapolis, MI）などが存在する。これらの禅センターは共に、市街地に位置して修行と同時に布教活動も行い“シティーセンター”と呼ばれる施設のほかに、修行のための施設（これは“マウンテンセンター”または“リトリートセンター”と呼ばれることが多い。）を郊外に所有している。そしてこれらの禅センターには、そこから派生したそれぞれの系列の禅センターも存在する。

これらの禅センターの日課行事の傾向として、まず“坐禅”・“法要”といったスケジュールが、早朝と夕刻以後に集中していること、7日間がその活動のサイクルとなっていることが指摘できる。日本の曹洞宗修行道場における生活サイクルは5日間である。しかし、北米の禅センターにおいては、安居・接心期間中でも1週間がその生活のサイクルとなっている。これらは、北米における禅センターでは、その在家メンバーの社会生活と禅センターにおける修行が両立できるように、そのスケジュールがたてられていることを意味する。そして、そのスケジュールを、そのメンバーの事情に適したものに積極的に変更していくという姿勢が、北米の禅センターでは一般的に観察される。例えば、ロサンゼルス禅センターでは、そのメンバーに対して、アンケート調査を行い、メンバーの要望を取り入れようとしている。そしてその1991年の調査は、センターのスケジュールが「早朝すぎないか。」「夜遅すぎないか。」、また「週末の活動の充実を希望するか。」というものであった。また、サンフランシスコ禅センターでは、設立当初“夜坐”は、日本の場合と同様に夕食後行われていたが、現在は午後5時40分より坐

禅を始め、その後に夕食をとるというスケジュールに変更されている。これも、そのセンターの指導者であるメル・ワイツマン (Mel Weitsman) によれば、「皆で集まってゆっくり食事を楽しみたいと希望したメンバーが多かったため。」ということであった。(1939年9月のサンフランシスコ禅センターでの筆者のインタビューによる。)そして、ミネソタ禅センターにおいても、ザ・コーディネイト・コミティと呼ばれる委員会が、よりその実情に適したスケジュールを検討している。このように個々の禅センターは、独自にそのスケジュールの変更を行っている。

そして、伝統を固守せず、変更していくという姿勢は基本的な宗教活動である“朝課”においても指摘できる。ロサンゼルス禅センターとサンフランシスコ禅センターでは朝課において以下のような経典を使用している。尚、ミネソタ禅センターでは、サンフランシスコ禅センターとはほぼ同様の朝課を採用している。

ロサンゼルス禅センター朝課…月曜・水曜・金曜：摩訶般若波羅密多心経・宝鏡三昧・延命十句観音経・大悲心陀羅尼・消災妙吉祥陀羅尼・弁財天神咒；火曜：摩訶般若波羅密多心経の英訳 (Maha Prajna Paramita Heart Sutra), 参同契・延命十句観音経・大悲心陀羅尼・消災妙吉祥陀羅尼・弁財天神咒；木曜・土曜：摩訶般若波羅密多心経の英訳・参同契の英訳 (Identity of Relative and Absolute)・延命十句観音経・大悲心陀羅尼・消災妙吉祥陀羅尼・弁財天神咒；日曜：摩訶般若波羅密多心経・参同契・延命十句観音経・大悲心陀羅尼・消災妙吉祥陀羅尼・弁財天神咒

サンフランシスコ禅センター朝課…月曜；摩訶般若波羅密多心経の英訳 (Great Wisdom beyond Wisdom Sutra)・消災妙吉祥陀羅尼；火曜：摩訶般若波羅密多心経・延命十句観音経・参同契の英訳 (Merging of Difference and Unity)；水曜：摩訶般若波羅密多心経の英訳・消災妙吉祥陀羅尼・参同契；木曜：摩訶般若波羅密多心経・延命十句観音経・宝鏡三昧の英訳 (Song of the Jewel Mirror Samadhi)；金曜：摩訶般若波羅密多心経の英訳・金剛経の英訳 (The Diamond Sutra)

個々の禅センターは、以上のように朝課をアレンジしている。そして、その特徴として、日本式の経典とその英訳を交互に使用することが指摘できる。また、この二つの禅センターを比較した場合、そこで使用される経典の種類の数から、サンフランシスコ禅センターの方が、日本式朝課の簡略化が進んでいるといえる。

一方、比較的規模の小さい禅センターの場合、坐禅のみを行い、朝課などの行事を行わないものも観察される。パイオニア・バレー禅堂 (Pioneer Valley Zendo:

(178) 北米における曹洞宗系禅センターの日課行事について (浅井)

Warnarhill Road P.O.B. 141, Charlemont, MA) などがこのスタイルを採用している。またミルウォーキー禅センター (Milwaukee Zen Center: 2825 N. Stowell Ave., Milwaukee, Wisconsin) の場合も類似しており、その指導者である秋山洞禅は「日本語雑談」という現地の日本語新聞1991年3-4月号のインタビューにおいて、「お経は、お唱えるよりは、じっくり読んで、その教えを実行することが大切なんです。ただ、私が来る前から、ここの人達は般若心経を英語で読んでいて、それを止めようとしたら抵抗が強かったので、現在はそのまま続けています。」と述べている。

ところで、経典の英訳は1種類ではなく、系列の禅センターごとに、そこで翻訳された異なった英訳を使用している。日本曹洞宗務庁は、1982年に日本で使用されている経典の英訳『Soto Shu Sutras』を出版しているが、これと全く同じ英訳の経典を使用している禅センターはほとんど存在しない。

また、サンフランシスコ禅センターでは、英訳の経典を用いた場合。その回向は英訳のものとなり、日本式の経典を用いる場合、それは日本語のものとなる。しかし、ロサンゼルス禅センターでは、回向は常に英訳のものが使用される。そして、それはサンフランシスコ禅センターの英訳の回向とは異なる。日本においても、禅宗では山規山風が重視され各寺院ごとの自主性を重んじているが、以上のことから、北米においては、個々の禅センターの多様性・独自性が日本以上に強いといえる。また、禅センター間の交流が少ないことも推測できる。なぜなら、ロサンゼルス禅センターとサンフランシスコ禅センターとの間には、完全に同様である法要は存在しない。これは、それらが共同に主催する行事が少なかったことを意味している。また、パイオニア・パレー禅堂のメンバーにとっては、読経という行為自体に違和感があるだろう。

現在、制度上北米の曹洞宗系禅センターを統括しているものは、ロサンゼルスの日系寺院禅宗寺におかれた総監部である。しかし、実際には、個々の禅センターの独立性が強く、総監部に統括力があるとはいいがたい状況にある。そして、全体の傾向としては、北米の禅センターは日本曹洞宗の統制下から離れ、個々の禅センターにおいて日本の禅のアメリカ化が進みつつあるという傾向が指摘できよう。

〈キーワード〉 禅, アメリカ, 文化変容

(愛知学院大学大学院)